

# MSRS 新型コロナウイルス感染症「無観客ライブ」感染対策ガイドライン

医療法人メファ仁愛会 マイファミリークリニック蒲郡 理事長・院長 中山久仁子先生：監修  
株式会社 スターダストプロモーション 週末ヒロインももいろクローバーZ ライブ制作班：作成

## ★このガイドラインについて

ももいろクローバーZ コンサート制作にあたり新型コロナウイルス感染症予防の観点から以下の通り、「MSRS(ももクロ新リアルライブ世界秩序)無観客ライブ感染対策ガイドライン」を作成いたしました。国が策定した規制が解除されても新型コロナウイルスの感染リスクは続き、長期化するとも言われています。お客様にエンターテインメントを今後も届けるにあたり、自主的な感染予防対策を徹底し、すべての出演者・スタッフが安心して働ける環境を確保することが、必須だと考えます。そのスタートとして「無観客ライブ」開催に向けての医学的見地に基づいたガイドラインを厳守しライブを制作したいと思います。

ライブの制作の現場には、特に多くの出演者（バックバンド・バックダンサー・ゲスト出演者など）、スタッフが参集します。ソーシャルディスタンスを保ち、「3密」を避けることは大前提ですが、準備や収録の過程では、どうしても密接や接触を避けられない局面が発生します。そうした中で起こり得る感染リスクを徹底して回避し、クラスター（集団感染）を発生させないという強い覚悟と周到な準備が現場のあり方として最も重要なポイントとなってきます。

今回対策の柱として、以下の方針を掲げます。

## 出演者・スタッフの感染予防対策と健康状態確認の徹底

「不特定多数の人が接する場所との接触」と「近接の会話」に気をつけることで、リスクの大部分は減らせます。また感染を防ぐための最大の武器は、こまめな「手洗い」と「手指消毒」です。

毎日の検温や健康状態の確認にも各自で責任を持ち、体調不良の際はあらかじめ決められた連絡先に連絡して、撮影現場に近づかないことを厳守してください。

現場には必ず新型コロナウイルス感染予防対策リーダー在籍させます。

## 3密防止対策の徹底

できる限り少ない人数で、できる限り短い時間に、できる限り安全な距離を確保。

出演者、関係者に対しては、事前に主催者の対策を説明し、本人の同意を得ます。その際、主催者の都合を無理強いすることがないように、十分に配慮します。

県を超えての下見や事前収録は取材先、出演者の同意のもと、必ず事前に連絡、相談します。感染防止対策を徹底し、必要最低限の範囲であることを確認の上実施します。

自分が触れるものは自分で消毒する、物品の共有をしないなど、一人ひとりが責任を持って感染リスクを回避する行動をとります。

新型コロナウイルスは誰もが感染したり、感染させたりする可能性があります。感染した人が「悪い」訳ではありませんので、体調が優れない人は躊躇せずに声をあげてください。

このマニュアルでは解決できないことが起こったときは、専門家に相談の上、医学的見地に立って判断し、対処します。

## 【発熱・体調の確認】

・スタッフ・出演者は全員、毎朝の体温測定を徹底し、発熱がないことを確認し、各自で記録した問診票、(行動確認シート)を記入し、制作に提出する。制作は日ごとに(リハーサル・本番含む)問診票を管理・保管します。

(体温測定の結果 37.5 度以上の場合、スタッフは上司に、出演者は事務所マネージャーに連絡をお願い致します。)

・スタッフ・出演者は全員、発熱、咳、頭痛、息切れ、呼吸困難感、筋肉痛、全身のだるさ、下痢、味覚・嗅覚異常、頭痛、気分不快などの自覚症状があった場合も、連絡の上、自宅または宿で待機してください。

・スタッフ・出演者は全員、入館時、玄関・楽屋口にて非接触体温計にて確認をお願い致します。

(37.5 度以上の場合には帰宅、または宿で待機をお願い致します。)

・現場遂行中に体温上昇を自覚した時も、非接触体温計にて確認をお願い致します。

・コンサート制作会社 HIP が配布する「行動記録シート」に毎日の行動の録をお願い致します。

(※平時は開示の必要性はありません。万が一、現場から感染者が出た場合に、保健所の調査を受ける際の必要書類になります。)

・コンサート当日の朝、体調に不安がある時は、上司に連絡して、現場に行くのを控えてください。

(ももクロ及び出演者は、マネージャーに連絡し、宿・自宅での待機をお願いいたします)

・家族に体調不良者が出た場合も、同様に上司に連絡して、撮影現場に行くのを控えてください。

(ももクロ及び出演者は、マネージャーに連絡し、宿・自宅での待機をお願いいたします)

・現場遂行中でも発熱、咳、咽頭痛、息切れ、呼吸困難感、筋肉痛、全身のだるさ、下痢、味覚・嗅覚異常、頭痛、気分不快などの自覚症状がないか、常に自分の体調に気を配ってください。

・リハーサル・本番中で、もし少しでもこのような症状を感じた場合は、すぐに上司に報告して撮影現場を離れてください。(御出演の皆さんは、近くにいるマネージャー、制作スタッフに連絡をお願いいたします)

・1週間以内に新型コロナウイルス感染症を疑わせる症状(発熱、咳、咽頭痛、息切れ、呼吸困難感、筋肉痛、全身のだるさ、下痢、味覚・嗅覚異常、頭痛、気分不快など)があった場合には申告してください。

⇒上記の症状があった場合、発症後8日経過するまで、および解熱剤を服用していない状態で解熱後および症状消失後3日経過するまで、参加を見合わせていただきます。その場合、出演者の内容を一部変更する場合がございます。

・万が一体調が悪くなった場合は、出演者・スタッフとも各セクションの管理者に相談してください。

・体調不良者、発熱の出演者・スタッフが発覚した場合、直ちに自治体の保健機関に連絡をとれる体制づくりを強化します。(リハーサル会場・本番会場ともに)

また、保健所・医療機関等の公的機関から提出開示の協力を求められた場合には、個人情報保護に留意した上で提供開示します。

## 【扮装・待機】

- ・出演者の皆様の入り時間に「時差」を作りたいので、以前より早めにお越し願う場合があります。
- ・櫛、ヘアブラシは、出演者本人でなるべく持参してください。
- ・本番・リハーサル衣装をご自身の御自前の衣装として活用させていただきよう、お願いする場合がございます。また、ご自宅から着用したまま、御来局いただくようお願いする場合がございます。

- ・ももクロ、ダンサー以外には、衣裳スタッフだけが、衣装に触れることを基本とします。  
(※ワイヤレスマイク装着時には、音声スタッフが対応することがあります。詳細は後段に。)
  - ・衣裳スタッフは、必ずマスクを着用し、衣装を一着触るごとに手をアルコール消毒します。
  - ・個室をご用意できた出演者の方は、衣装への着替えを、個室で、御自身の手でお願いいたします。
  - ・衣裳部屋での着替えは、同時に複数のひとの着替えをしないで「一度にひとりずつ」とします。
- アクセサリや眼鏡などは、一度使用するたびにアルコール消毒します。
- ・衣裳は可能な限り、一度使用するたびに洗濯・乾燥します。乾燥が間に合わない場合、アルコールで消毒します。

- ・できるだけ広いスペースをメイク場所とさせていただきます。
- ・スタッフ・出演者は全員、メイク場所で作業する前に、石けんで手洗いをお願いします。
- ・他の出演者の方と2メートル間隔を空けて、メイク作業をします。
- ・「御自身で着替え、メイク後、スタッフが最終確認」の段取りにご協力いただく場合がございます。

- ・メイクさんは施術相手が変わるたびに、手洗い、もしくはアルコール消毒をします。
- ウイルスに素手で接触するのを防ぐために手袋の使用を一度は検討しましたが、汚染された手袋をしたままの作業は逆に感染リスクを増大させます。素手で作業をしてこまめに手洗いする方が良いと判断しました。

- ・メイク道具は出演者ごとに個別のものを使用し、使いまわす場合は施術相手が変わるたびに、アルコール消毒を行います。
- ・ワイヤレスマイクの取り付けを、御自身でお願いする場合がございますのでご協力ください。
- ・メイク施術にお待ちいただく際の椅子は、対面式を避け、同一の方向を向くような配置とします。
- ・個室、メイク場所、テーブル。ソファは毎日収録前にアルコール消毒、収録中においても適宜消毒作業を励行します。
- ・本番中のメイク直しは、最低限に控えるように心がけます。

## 【他人のモノを触らない・自分のモノを触らせない】

- ・他人の携帯やスマートフォンを使わないでください。
- ・ご出演の皆様、人に預けないで、個人管理をお願いします。
- ・脱いだ私服も、個人管理をお願いします。

## 【清潔を保つ・飛沫感染を防ぐ】

- ・手洗い場で、石けんで頻繁に手洗いをしてください。
  - ・出入口付近に設置された消毒用アルコールで、頻繁に手の消毒をお願いします。
  - ・飛沫感染を防ぐ衣装・着用アイテム（ベールなど）があれば、工夫し着用する。
  - ・ステージエリアに入る時も、消毒用アルコールで、頻繁に手の消毒をします。  
靴、靴の裏にも消毒用アルコールをスプレーしてからステージに入ってください。
- ※ 靴を介してウイルスが運ばれたトイレの床が、感染源になった事例が多いと報告されています。

・手洗い後は、共用のタオルで手を拭いたり、ジェットタオルで乾かししたりせず、自分のハンカチか、設置されたペーパータオルで手を拭いてください。

※「頻繁に」……ステージエリアに出入りするごとに、飲食するごとに、喫煙するごとに、たくさんの人が触るドアノブなどを触った時ごとに、……のレベルで !!



出典：厚生労働省新型コロナウイルス感染症の予防啓発資料

- ・握手、ハグ、挨拶のキス(!?) を控え、他人の身体にみだりに触れないようにしてください。
  - ・咳・くしゃみをする場合は、（掌ではなく、ティッシュ・ハンカチや二の腕で）口を塞いでください。
  - ・トイレの蓋は閉めて流してください。
  - ・トイレに人が密集しないように、間隔（2m 目安 最低 1m）をあけて順番を待ってください。  
（フロアマーカーを設置しますので、それに従って間隔をあけてください）
  - ・以下、ソーシャルディスタンスの心構えとして。
    - どんなときもできる限り、ソーシャルディスタンス（2m）を守って作業します。
    - どんなときもできる限り、ソーシャルディスタンス（2m）を守ってお話しします。
    - どんなときもできる限り、ソーシャルディスタンス（2m）を守って座ります。
    - 喫煙のときもできる限り、ソーシャルディスタンス（2m）を守って吸います。
    - 食事のときもできる限り、ソーシャルディスタンス（2m）を守って食べます。
- （仕事で一緒にいる以前の、親子など特定の人とお互いに密接な間柄なら、上記にあたりません）
- ・マスクは自分が体内にウイルスを持つ場合に、口から他人に向けて飛沫感染させるリスクの低減に最適かつ十分ですので、スタッフは全員、個人で調達したマスクの着用を義務とします。

(目から他人に向けての飛沫感染は無いので、他人への感染防止はマスクのみで十分です。

後述するようにフェイスシールドは、他人への感染防止を目的とするものではありません)

・出演者の皆様にも、本番直前まではマスク着用をお願いします。ただし、作業に支障がある場合に備えて、口元シールドを代替品として用意しております。(他人に対する飛沫感染のリスク低減効果は、マスクと比較すると劣ります)

・フェイスシールドは、目、鼻、口から自分の体内へウイルスが侵入するのを防ぐためのものです。

不特定多数の相手に近距離で近づく機会が多いスタッフには推奨されます。

・口元シールドは、口から自分の体内にウイルスが侵入するのを防ぐためのものです。

不特定多数の相手に近距離で近づく機会が多いスタッフには推奨されます。

・フェイスシールドや口元シールドと、マスクとの併用は「不特定多数の相手に近距離で近づく機会が多い」「周囲に対して大きな声を出すことが多い」など、自身の役職を鑑みて判断してください。

・フェイスシールド、口元シールドは、取り外す時はシールド面には手を触れないようにして1日1回以上、消毒してください。

・屋内でのマスク、フェイスシールド、口元シールドが、体に負担になる可能性があります。こまめに水分を補給し、他人との距離をとって適宜取り外して休憩を取ってください。

・必要に応じて、ゴーグル、指サック・除菌スプレーなど適切な個人用保護具も活用します。

・場合によっては、本番直前まで透明ビニール製バリヤを用いて、出演者間を隔絶します。

・透明ビニール製バリヤは、1日1回以上、消毒。

・複数の人が触れる備品、ドアノブなどは、1時間ごとに1回、消毒します。ドアノブなどを消毒した雑巾なども1時間に1回ごと処分します。

・マスク、フェイスシールド等、飛沫感染の要因となる着用物は会場で処分せず、各自持ち帰って処分する。

## 【ごはん / 紙モノの配布】

・食事の前後には、石けんで手洗いをお願いします。

・個室をご用意できた出演者の方は、積極的に個室での食事をお願いします。

・残念なことです。会話を弾ませるのは、お食事を終えてマスクをするまで我慢しましょう。

・食後は混雑する喫煙ブースですが、人数を守り、会話を控え、使用基準の徹底を心がけます。

・セルフサービスのケータリングは採用せず、個別包装されたお弁当スタイルにします。

・ソーシャルディスタンス(2m)を可能にすべく広い休憩場所確保に最善を尽くします。

・ランチタイムの「密」を避け前半組・後半組と「時差」をお願いすることがあります。

・場合によっては、各車両の中でのお食事を推奨させていただくことがあります。

・お菓子等を「お手すきの時に、各自手に取ってください」の従来スタイルは廃止します。

・大きなボトルで皆がシェアするタイプの、飲み物提供は廃止して、個別のボトルにします。

個人ボトルも各自管理し、誤って他人が手に取って飲まないように管理し、持ち帰ります。

・紙類の配布も「各自手に取ってください」ではなく、できるだけ少ない人の手を経ていきわたるよう、チームごとにチーフが配るなど、検討します。

・スケジュール等は「一斉メールで配信」も、検討します。

・コンサート当日は、スケジュール改訂版を拡大コピーして掲示することも、検討します。

## 【換気・空気をきれいに】

- ・リハーサルを行う時は、換気回数を毎時2回以上、30分に1回以上数分間程度ドアまたは窓を開けます。  
空気の流れを作るため大型扇風機を使用します。  
複数の窓がある場合は、二方向の壁の窓を開放します。窓が一つしかない場合はドアを開けます。
- ・本番中でも音漏れに影響でない限りドアを解放しておきます。
- ・音漏れに影響しない限り「大道具用シャッター」を常に全開のままにします。

⇒ 従来、搬入搬出スタッフの出入り時以外、密閉するのが基本でした。  
コンサート本番中も含めて上記のように、常にステージを密閉しないことで、  
換気効果を最大限に保ちます。

- ・リハーサルスタジオやステージ場所に、二酸化炭素濃度の測定器を設置して、室内の空気が 1000 ppm 以下に保たれているかどうかを確認します。
- ・給気口と排気口の位置を確認して、一定方向へ気流があることを確認します。  
同時に、給気口と排気口付近に、換気に支障をきたすような障害物がないことを確認します。
- ・ステージセットは換気ができる設計とし、四方を囲んだセットにならないよう配慮します。
- ・四方を囲む必要のある場合は、送風機で空気の流れを作るなど、換気を行うようにします。
- ・ステージセットの配置は人が密集しないようレイアウトし、また動線や作業スペースを広くとれるようにします。

## 【入館・退館】

- ・公共交通機関を使うスタッフに考慮し、ラッシュ時を避けた出勤が可能になるよう配慮します。
- ・余分な段取りが増える分、従来以上に余分に時間がかかるのを見越して、所要時間を計算します。
- ・スタッフ、御出演の皆様の入り時間の設定にも、従来以上に早めに入って頂く場合がございます。  
入館時は扉前に人がたまらないように、ソーシャルディスタンスをとって待機します。
- ・入館時に検温をし、事前に記載してもらった問診票（行動確認シート）の提出をもって、  
入館パスを発行します。
- ・入館時にウイルスを持ち込まないように、楽屋口等に設置しているアルコール消毒液を必ず使用してから  
楽屋や舞台に進んでもらいます。

## 【演出】

- ・演出はなるべく密を避けるよう心がけます。  
2メートル以内に接近するダンス等演出は、出演者の皆様の同意を頂いた上採用します。
- ・ダンス、振り付け以外接近する場合は極力対面状態（顔と顔が相対する状態）にならないよう心がけます。
- ・バックミュージシャン同士の立ち位置の間に、アクリル板などを立てて飛沫感染を防ぎます。
- ・出演者どうしが接触する際には、本番直前に、当事者に手指の消毒を行っていただきます。

（参考：厚労省HPのQ&Aより）

濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は二つあり、

- 1.距離の近さと
- 2.時間の長さです。

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1 m程度）で15分以上接触が合った場合に濃厚接触者と考えられます。

- ・事前にネットミーティングを行い、リハーサルがスムーズに行えるようにします。

## 【密集しない・通信する】

- ・出演者の皆様には、付き添いの方の人数を最小限に留めるようお願いいたします。
  - ・各セクションから本番ステージに入る人数を、できるだけ削減します。
  - ・リハーサル時も必要最小限にスタッフを限定します。
  - ・技術スタッフは、部署ごとに離れて待機し、できるだけ他部署との直接のやり取りを減らします。
  - ・技術スタッフは、部署ごとにスタジオへの出入り時間にも若干の「時差」をつけて「密」を避けます。
  - ・ステージ内での、スタッフ同士の会話は短めに。長い話はセットから出て、会話をします。
  - ・ステージ内のインカムを他人と共有をしないように、自分専用で名前を書いて貼り、消毒します。
  - ・制作・演出・美術チームを別システムのトランシーバーでつなぎ、通信します。
  - ・自分のトランシーバーを他人と共有をしないように、自分専用機器に名前を書いて貼ります。
  - ・自分のトランシーバーはコンサート期間中、(バッグ・ケース類も含め)各自で管理・保管・消毒します。
  - ・トランシーバーのバッテリー充電は、バッテリーのみを制作に預け、制作部で充電します。
  - ・制作は充電済みバッテリーを、消毒して戻します。
  - ・美術チームは、ロスタイムなく必要に応じてセット内の美術要素に修正・追加を加えます。
- 
- ・場当たりは各担務2人まで参加とし、他のスタッフはモニター前などで分散して確認します。
  - ・場当たり後のセッティングは助監督の指揮下、各セクションがスタジオセットに交代で出入りします。
  - ・メイク場所にリハ室使用日は、場当たり後のセッティング中、出演者は個室 or オレンジルーム or リハ室で待機とします。
  - ・セット内で演出チームが手に触れても良い美術的要素を（美術チームと相談の上）限定します。
  - ・リハーサル後の修正は舞台監督の指揮下、各セクションがステージに交代で出入りします。  
(演出が動きを修正／美術がモノを動かす／撮影が面角・カメラ位置を修正／照明が修正……)
  - ・テスト後の修正は助監督の指揮下、なるべく迅速に行うよう最大限努力します。

### 【移動・運搬】

- ・車両の運転手は、ハンドル等、複数の手に触れる部分を随時、消毒します。
- ・車両の運転手は、他の運転手とシェアせず、自分専用の車両1台の準備から片付けまで携わります。
- ・車両の運転手は、非接触型体温計で検温します。
- ・車両の運転手は、体調を崩した人の求めに応じて、非接触型体温計で検温します。
- ・車両の運転手は、換気のためにできるだけ、車両の窓は開けておきます。
- ・乗客全員が、車内ではマスクを着用します。
- ・乗客全員が、お互いに隣の席を空けて、座ります。
- ・車両部は、従来以上に車両の台数を増やしたり、車両を大型化したりして、座席数を確保します。

### 【リハーサル場所】

- ・リハーサル場所では可能な限り、常に大型空気清浄機を2台、作動させておきます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、広めのスペースを確保し、換気と空気清浄を試みます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、スタッフは会話をする際にステージ外に出ます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、スタッフが持ち込む装飾要素を削減し、現地のありもの活用を試みます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、外来者を出来るだけ避け、必要な人のみその場にいる様にします。
- ・リハーサル後に、場所の消毒をします。
- ・リハーサル場所では消毒用アルコールで、出演者やスタッフの手や衣装の消毒を可能にします。

靴、靴の裏にも消毒用アルコールをスプレーしてからスタジオに入ってください。

- ・リハーサル場所の装飾や、撮影、清掃にかかる時間をできるだけ正確に考慮して先方にお伝えします。
- ・リハーサル場所での日程は先方の都合も十分に鑑みて、慎重を期すように心がけます。
- ・食事休憩では、社会的距離（ソーシャルディスタンス）を取れるようスペースを広げます。

### 【下見・現地調査など、準備も最小人数で】

- ・下見や現地調査は最小限の人数（基本的には5名以下）、1時間以内に限ります。
- ・技術打合せは、各担務チーフのみで行います。それ以外のスタッフはリモートで参加します。



## 【収録チーム】

- ・カメラと三脚はナンバリングし、自分の割当以外は素手で触らないでください。
  - ・どの機材を誰が使うかを、一貫化させ、他人の機材に触れないでください。
  - ・セット内の小道具などを動かしたい場合、必ず美術部に依頼し、自分では触らないでください。
  - ・現場移動毎に手指のアルコール消毒を実施してください。
  - ・始業時と終業時に機材のノンアルコール消毒を実施してください。
  - ・一人でセッティング出来る範囲の機材で撮影してください。(ジブやレールはなるべく使用しないでください)
  - ・軍手着用で作業する場合は、一作業につき交換する。使用後の軍手については、ビニル袋に入れ回収することとする
- また、素手で他の人が触れた機材に触らないといけない場合は、こまめに手をアルコール消毒する

※ 軍手にはウイルスが付いていると想定して使ってください。

つまり「軍手で顔を触らない」「必要のない時はすぐに外す」「外す時は裏表になるようにして、表部分を触らない」「もし可能なら、軍手をこまめに交換して、使用後の軍手は洗濯する」などを実行してください。(家庭用洗剤の普通の洗濯で良いです)

- ・複数人でセッティングする場合は手袋を着用してください。
- ・カメラマン同士が密接しないようできる限り 2m 離しますが、距離を保てない場合は感染対策をして下さい。
- ・役者への近接撮影を行う際は十分に配慮してください。
- ・他担務の機材には触らないでください。
- ・箱馬や砂袋などに目印をつけ、他担務との混在を避けてください。
- ・打合せ等は広い空間で距離をとって実施してください。
- ・バッテリーケースは、各カメラ分けてください。
- ・撮影時は各カメラマンはカメラと三脚を各自で設営してください。
- ・撮影補助がステージに入るのはケーブルとバッテリーを受け渡すときになるべく限定してください。
- ・撮影時は光ケーブルを色分けし、ケーブル運用は撮影補助に任せてください。
- ・三脚の調整は自分一人で出来る範囲で行ってください。
- ・撮影時は、外せる壁は外して撮り口を確保し、セット内の通気性を良くしてください。
- ・壁を全面塞いでセットに乗り込む撮影を極力少なくしてください。

## 【設営・撤収】

- ・軍手・マスクの着用を徹底します。
- ・各セクションが同じ場所での作業にならないように、タイムテーブルを考慮します。  
現場で密になりそうな状況が生じた場合、優先順位を指示します。
- ・一人では安全が担保できない場合は、複数で協力して作業するが、2 m 以内に近づく時間は最小限にとどめるようにします。
- ・声を出しての注意喚起後、その作業に携わったものは、アルコール消毒・手洗い・うがいを行うようにします。
- ・感染予防とともに、熱中症にならないよう、水分補給を行うように配慮します。
- ・複数人数での作業の場合、接触する対象物・人を同じグループにします。
- ・各セクションの記載事項を、舞台監督として現場で注意喚起していきます。

## 【照明部】

- ・どの機材を誰が使うかを、一貫化させる。難しい場合は、作業終了後、積み込みの際に機材の消毒を実施いたします。
- ・作業時は手袋、マスクまたはフェイスシールドを着用する。素材に問題がなければ、作業前後に手袋をはめる前と手袋をはめた状態の両方でアルコール消毒もしくは手洗いを実施いたします。
- ・機材の積み込み、積み下ろしについては、自分で使う機材は自分で行います。  
主要機材には使用者の目印を付ける。機材車内での作業は複数人では行いません。
- ・自分のエリアを決め、可能な限りその範囲で作業する。(担当の器具を決める) 一人での作業が多くなるため、セッティング・操作にはいつも以上に時間をかけ、安全を最優先にします。  
やむを得ず機材を受け渡しする際は消毒を実施いたします。
- ・一人では安全が担保できない場合は、複数で協力して作業するが、2 m 以内に近づく時間は最小限にとどめます。
- ・必要になる可能性のあるものは、なるべく手元に置いておきます。(移動を最小限にする)
- ・コンサート開始前と終了時には使用機材の消毒を実施いたします。
- ・担当エリアを決め、可能な限りその範囲で行います。
- ・バトン昇降の担当者は固定します。
- ・調光卓については、担当者変更時の作業前に消毒を実施いたします。

## 【音響部】

- ・ 倉庫でのマイクスタンバイ時はラテックス手袋を着用してパッケージしてください。作業終了後手袋は廃棄してください。

- ・ 積み降し、スピーカースタック時にソーシャルディスタンスをキープするのは非常に難しいのが現実です。マスクを着用し十分注意して行ってください。

- ・ 飛沫が付着すると予想されるマイク(VO,H/S MIC,CHO,アナウンス、舞台監督ガナリ、等)の使い回しはしないでください。

イベントでのプランニング時もマイクの使い回し出来ない旨を制作サイドと相談し、難しい場合はウインドスクリーン、グリル交換等に対応してください

- ・ マイク使用の前後は手洗い、手指消毒、うがいをしてください。マイク仕込み時は使い捨て手袋着用し、マイク仕込みが終了したら手袋は廃棄してください。

- ・ 回線チェックはスマートフォンのメトロノームアプリや発信器等を工夫して使い、喋ったり、接触してのチェック行為はしないでください。

- ・ アーティスト、メンバーが使うマイクはチューニング時でも喋らないでください。必要がある場合はウインドスクリーン、グリル交換、消毒を徹底してください。また行為を制作サイド、事務所側に認識してもらってください。

- ・ VO マイク等は直接渡さず、マイク用籠等から受け取ってもらいます。籠の中は常に清潔なタオルを使用してください。

ヴォーカリストが複数いる場合は人数分の籠を準備してください。

- ・ IEM の脱着に関しては極力本人にやってもらう事をマネジメントと確認してもらうのが好ましいですが、MSI でケアする場合はマスク、ゴム手袋着用でアーティストに接触してください。場合によってはフェイスシールド着用してください。マイク同様直接受け渡しはしないでください。

- ・ 出演者と距離は2メートルを目安に（最低1メートル）確保する事を意識してください。ステージ上のメンバーには必ずコミュニケーション用のマイクを準備し直接顔を近づけてモニターオーダー等を聞かなくても良い環境を作ってください。

- ・ バラし時はヴォーカルマイク、コーラスマイク、飛沫が付着していると予想されるマイク等は手袋を装着して除菌してパッケージしてください。マイクを触った手袋はすぐに専用のゴミ袋に捨ててから作業再開してください。

- ・ 消毒に使用したアルコールウェットティッシュや使用済みマイクを触った手袋は二次感染・三次感染を防ぐため、他のゴミと一緒にせず専用のゴミ袋に捨て管理、処分してください。

- ・ マイクに関しては倉庫に戻ってからウインドスクリーンは石鹼水で洗浄し、マイク本体は除菌後 72 時間隔離して別現場には回さないでください。倉庫内に隔離スペース確保してください。

## 【楽器】

- ・作業時の前後、手指のアルコール消毒を徹底してください。
- ・一度楽器をセッティングしたあとは必要が無い限り、ミュージシャン以外の人は触れないようにしてください。
- ・ギターの持ち替えなどは、演出上、また楽曲のアレンジ上 問題のない場合はミュージシャンが自分で行うようにしてください。スタッフが行う場合は必ず手袋をして受け渡しをするようにしてください。
- ・楽器に触れないとできない機材のチェックなどは必要最低限をスタッフで行いますが、基本はミュージシャン本人が行うようにしてください。
- ・チェックの際、スタッフも触れる可能性のある楽器の鍵盤部分など、アルコール消毒ができる部分は徹底的にしておくようにしてください。

## 【アルバイト管理部】

### <アルバイトスタッフ管理対策>

- ・集合時に検温・体調管理問診票への記入を実施いたします。
- ・集合場所に密にならないよう、アルバイトチーフによる集合場所内での待機間隔の徹底をいたします。また、集合時のマスク着用義務を事前に強く周知します。
- ・検温時及び問診票への記入時に基準値等(37.5度)を上回る等の疑わしき症状が見受けられた場合には、当人に通告し合意をした上で、帰宅させ業務には従事させません。
- ・体調管理問診票は、社内での保管を徹底し、後日、保健所・医療機関等の公的機関から提出開示の協力を求められた場合には、個人情報保護に留意した上で提供開示いたします。

### <衛生環境予防対策>

- ・入館、退館時及び業務中や休憩時等には必ず手・指の消毒又は手洗い・うがいを行わせます。(アルコール消毒液・モンダミン(市販))
- ・アルバイトスタッフ1名に1つ消毒液(50ml)を携帯させます。
- ・衣類に対してもこまめな消毒をさせます。(ファブリーズ等)
- ・控室の使用は、交代少人数(限定数)とし、密となる環境を生まないように十分気を付けます。
- ・ミーティングや休憩時は、十分な保安距離を確保させ、密着した隣同士の環境は作りません。
- ・アルバイトの手荷物は、個別の袋を与え、他者が物品を直接触れないように十分気を付けます。
- ・運営備品は、事前に消毒されたものだけを持ち込み使用し、複数人での使用は行いません。(複数人で使用せざる負えない場合には、管理者立会いの下、消毒の目視確認を行い、受渡しを行います。)

### <飛沫感染予防対策>

- ・業務に従事する際には、マスク・フェイスシールド・マウスシールドの着用を義務付けます。(着用物は、従事環境(屋内・屋外)に於いて、その組み合わせを変更します。)
- ・アルバイトが使用した着用物は、専用ごみ袋(2次的感染防止)を用意し、使用后廃棄致します。

### <接触感染予防対策>

- ・業務に従事する際には、手袋(布・ゴム・ポリエチレン・皮等)の着用を義務とします。(着用物は、従事環境(搬入出業務・案内業務・ケータリング業務等)により変更します。)
- ・使用した手袋は、専用ごみ袋(2次的感染防止)を用意し、使用后破棄致します。なお、個人の所有物である着用物に関しては、洗濯・消毒を徹底させます。
- ・当日使用する係員用の貸与シャツ類・腕章は、事前に洗濯・消毒したものを貸与し、使用後は、専用の回収袋にて回収を行い、クリーニング・消毒を行います。(2次的感染防止の観点から連日の使い回しは行いません。)

### <衛生環境保全対策>

#### (換気) = 警備

- ・主催者、会場側と相談を行い、換気対策の一環として、部外者の侵入の止対策を行った上で、入場口・ホワイエ・通用口・搬入口等の扉を開放します。

#### (消毒) = 誘導案内・ケータリング

- ・会場施設の必要と思われる個所(控室・通用口ドアノブ・ロビー手摺・客席等)の巡回消毒を行います。
- ・手洗い場に、ハンドソープ・消毒液・ペーパータオル・ごみ袋の設置を行います。

## <緊急時対応>

- ・万が一、体調不良者又は疾患系症状のスタッフ・来場者を見受けた場合や、自分の体調がすぐれないと感じた場合には、すぐ現場リーダーに報告し、対応を委ねます。  
(対応交代後には、手洗い・うがい・消毒を繰り返し、業務を一時中断とします。)
- ・現場リーダーは、現場担当社員・主催者に報告し、その場の環境保全を行います。  
(立ち入り禁止区域等のエリア確保)
- ・医師、看護師がいる場合には、診察診断を委ね、その判断に従い対応を行います。
- ・医師、看護師がいない場合には、検温等を行った上で、帰宅措置とし、後日、医療機関にて診察をし、その診断書等の提出を協力要請するものとします。

## 【当日効率を上げる】

- ・ロスタイムが生じないように、舞台監督どうしステージと楽屋・メイク場所とでうまく連携します。
- ・演出的工夫、撮影的工夫を試みます。
- ・照明の都合、飾り替えの都合、衣装替えの都合、つながりの都合、出演者の出入りの都合などを総合的に鑑みて、コンサート効率が最大になる順序を、制作部が総合的に判断し、工夫します。

## 【その他】

- ・糖尿病、心不全、呼吸器疾患等の基礎疾患がある人や透析を受けている人、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている人、高齢者、妊婦など、感染後に重症化するリスクが高い人をキャストイングする際には、感染のリスクを検討した上で慎重に行います。
- ・スタッフ・出演者等が海外に渡航した場合、2週間、撮影に参加しないようにします。

## 【周知・徹底】

- ・スタッフ・出演者は全員、リハーサル・本番・収録に入る二日前までにこのガイドラインの内容を確認します。
- ・コンサート現場では、このガイドラインの内容を見やすい場所に掲示して、周知徹底します。
- ・手洗い励行や人数制限など特に大事なルールは、ポスターなどで掲示して、周知徹底します。
- ・出演者、関係者全体の体調を、制作・舞台監督は毎日把握します。(LINE or メールなども活用して点呼)
- ・万が一現場から感染者が出て保健所から情報提示を求められた際、集約しておいた情報を提供します。
- ・以上のガイドラインに沿った現場を成立させる責任者として「感染症対策責任者」を置きます。
- ・「感染症対策責任者」は随時現場を観察しながら、適宜、換気や消毒を奨励し、ガイドラインが順守されるように最大限の努力をします。
- ・全関係者は「感染症対策責任者」の指示の下、自身が統括するメンバーにガイドラインの理解と順守を求めます。
- ・業務の一部を請け負い、自社スタッフに業務を行わせる協力会社の責任者の方にも、「感染症対策責任者」の指示の下、自社スタッフがガイドラインを理解し順守していただけるように責任をお持ちいただく旨、お約束頂きます。

## 【最後に】

- ・3密を避け、換気や消毒等の対策をしっかり行うことで感染リスクを下げることはできますが、リスクをゼロにすることはできません。
- ・あまり考えたくないことですが、LIVE現場から感染者が発見された場合は保健所の指示に基づいて、行動確認や検査などに対応しなければなりませんので、その時にご協力をよろしくお願いいたします。
- ・感染経路は予想を超えて多岐にわたっており、防ぎようがない場合もあります。どれだけ予防に努めても、誰もが感染のリスクにさらされています。もし撮影現場から感染者が見つかったとしても、それを感染者個人の責任に帰することはできません。感染予防のために「できるだけのことをする努力」をした結果、それでも感染が明るみに出た場合には、感染者を責めたり、対策を非難したりすることは、お互いに慎み、思いやりのある態度をとりましょう。よろしくお願いいたします。

以上

## 【参考資料】

厚生労働省新型コロナウイルス感染症の予防啓発資料

厚生労働省「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法